

タブレット端末を文具として使いこなした 実践報告「世界の諸地域 ヨーロッパ州」 ー伊藤流！テーマを通じて本質を捉え細部にこだわる授業ー

東京都 渋谷区立上原中学校 指導教諭 伊藤 郷

1 主体的・対話的で深い学びをめざして

今回は、筆者が昨年度実践したヨーロッパ州の単元を紹介する。本単元で社会科の本質に迫るための教師の工夫は次の5点である。

- ①単元を通して追究する問いと、それに答える形式の200字レポート（パフォーマンス課題）の設定
- ②実物教材（ユーロ紙幣、授業者の2006年の欧州旅行の写真）
- ③2016年のEU離脱・残留を問う国民投票経験者の英国人ゲストの話
- ④英国人ゲストとその父のeメールのやりとりを2通の手紙として教材化
- ⑤比較的最近のEUの未来に関する英語論文の紹介

ICTで細部にこだわった点は次の3点。

- ①デジタルノートによるポートフォリオの作成
- ②学習者用デジタル教科書の日常的活用
- ③気象・海象のデータサイト「earth」(<https://earth.nullschool.net/jp/>)の活用

を生徒の学習活動に組み込んでいく。

2 学習指導要領における位置付けを確認しよう

学習指導要領では、本単元は、社会科地理的分野の大項目B 中項目(2)に位置付けられ、この単元では6つの州それぞれについて、**空間的相互依存作用**や**地域**などに関わる視点（地理的な見方・考え方）に着目して、**主題を設けて課題を追究したり解決したりする学習活動**を行う。その学習活動を通して、世界の各地域で見られる**地球的課題**の要因や影響を、その**地域的特色**と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することをねらいとしている。また、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』p.49に、「各州を取り上げる順序は、(中略)生徒の理解しやすさなどを踏まえて検討するこ

社会科 地理的分野 世界の諸地域 ヨーロッパ州 教科書 66-81		
単元を通して追究する問い EU（欧州連合）は10年後、どのように変化しているだろうか。拡大か、縮小か？ 考える視点		
学習前の予想	学習後の考え	
各時間の問いと答え	EUの今後	
	拡大 しそう	縮小 しそう
1 ヨーロッパ州の自然環境 ユーラシア大陸の西部に位置するヨーロッパ州では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。		
2 ヨーロッパ文化の共通性と多様性 多くの国々が集まるヨーロッパの文化には、どのような共通性や多様性があるのだろうか。		
3 EUの成り立ちとその影響 ヨーロッパでは、国境を越えた結び付きが強まることにより、人々の生活にどのような変化が見られたのだろうか。		
4 ヨーロッパの農業とEUの影響 ヨーロッパの農業には、地域によってどのような特色があり、EUによる統合によってどのような変化が生じたのだろうか。		
5 ヨーロッパの工業とEUの影響 ヨーロッパの工業にはどのような特色があり、EUの統合によってどのような変化が生じたのだろうか。		
6 EUが抱える課題 統合を進めてきたEUでは、どのような課題が生じているのだろうか。		
7 単元の学習をふりかえり、「単元を貫く問い」への答えを考えよう。(上部に記入する)		

図1 本単元で使用した単元学習シート（OneNote上）

とが必要」(下線は筆者)とあり、中項目に関して本実践では**学ぶ順序**について、また、小項目②ヨーロッパ州では**単元を通して追究する学習課題**の設定(図1)について、それぞれ工夫した。

3 世界旅行気分学ぶ順序にひと工夫

帝国書院『社会科 中学生の地理』の学習者用デジタル教科書(教材)*[以下、教科書]の第2部第2章「世界の諸地域」の学習においては、興味をもって新しい単元に入れるよう**ストーリー仕立て**で**学ぶ順序**に組み換えた。まずは教科書のページ数が比較的少なめのオセアニア州から始める。豪州を植民地とした英国について深く知ろう➡ヨーロッパ州。なぜ欧州はアフリカへ進出したのか？➡アフリカ州。なぜ奴

* 本稿では、学習者用デジタル教科書(教材)は、帝国書院が発行する中学校社会科の学習者(生徒)用のデジタル教科書にデジタルコンテンツ等を付加したものをさします。

隸はアメリカへ連れていかれたのか？➡北アメリカ州。北米・南米でどのような共通点・相違点があるか？➡南アメリカ州。20世紀にアジアから南米への移民が多かったのはなぜか？➡アジア州。そして2学年で「アジアの中の日本」の視点を持ち、「大項目C 日本の様々な地域」を学ぶ流れである。

4 単元デザインのねらいと全体像

ヨーロッパ州における地域的特色を追究する主題を「**国どうしの結び付きの強まり**」とし、欧州において注目する**地球的課題**を「**経済格差**」とした。その上で学習課題を「10年後のEUは拡大か縮小か？」と設定し、計8時間の構成とした。EU統合のメリット・デメリット双方の根拠（データ・資料）を毎回の授業で集めて蓄積していき、それらをもとに多面的・多角的に考察し、その結果や過程を適切に表現し、EUの未来について自分なりの予測を主張できるようになることを単元のねらいとした。

図1の単元学習シートを生徒のMicrosoft OneNote上にデータで配信し、教師はいつでも確認できるようにしている。本単元では3回、現時点での予測を発表し合い、クラウド上や対面で意見を述べ、交流した。前半の第3時まではEU統合のメリットを前面に出した授業展開にする。そして後半の経済格差の授業で、EUは経済同盟であることと経済同盟ならではの困難さに触れ、デメリット寄りの授業展開とする。第7時には制限時間30分、200字以内で、Microsoft Formsを使って単元を追究する問いに答えるレポートに取り組む。既習事項に加え、自分や仲間がタブレットで収集・蓄積してきた情報を根拠にEUの未来を予測する。そして、欧州の当事者達の生の声を届けるため、+αの第8時「社会×英語Mix授業」を設定。EU離脱を問う英国国民投票（2016年）に参加した英国人ゲスト・Willさんを招き、本物のエッセンスを取り入れた。

EUの未来や地域統合の可能性を追究する中で得た知識や多面的・多角的に深く考えた経験は、他地域の学習場面、歴史・公民的分野にも

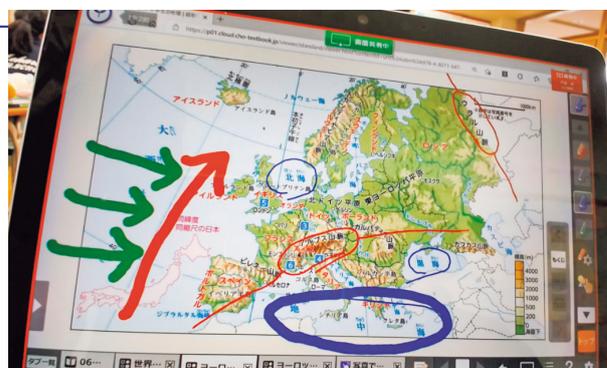


図2 自然環境や地形をタッチペンで色分けして書き込む

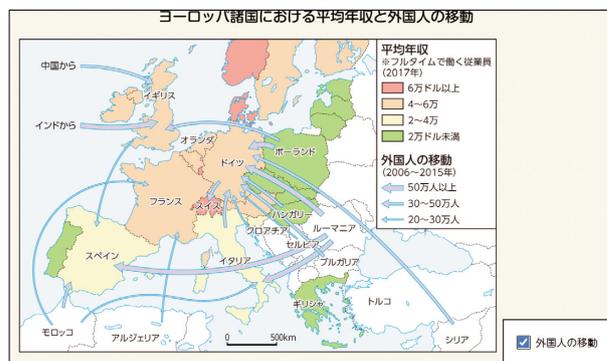


図3 この図からはEU内の経済などの様子がわかる

応用できる力となるはずだ。近い将来、欧州の中学生とのオンライン協働学習にも挑戦したい。

5 単元学習の指導上のポイント

本実践のポイントについて以下、説明したい。

【第1時】 単元を通して追究する問いに対して考え、学習の見通しを持つため、最初の時間にヨーロッパ全体と特徴を把握する。教科書上の自然環境や地形をタッチペンで色分けして書き込み（図2）、フィヨルドの形成過程を動画で確認。「earth」を活用してリアルタイムの偏西風を観察した。

【第3時】 実物のユーロ紙幣も見せ、人物が描かれないのはなぜ？から始まり、欧州の戦争史からEU設立までの流れを追う。最後はユーロ紙幣に描かれた窓やドアの意味から、地域統合の意義や価値について考えた。教科書p.78の資料図（図3）などを参考に、現時点での自分の予測を発表し合い、意見交換する。

【第8時】 社会科と英語科の融合。新出単語を確認し、EUに残りたいWillさんの手紙を読んだ後と、離脱したい父の手紙を読んだ後との計2回、「自分ならどちらに投票するか？」を個人、班、全体で考え、共有した。そして、生徒の視野を広げるために、2019年12月のオー

ストリアの論文を紹介した。この論文の調査では英国離脱後、EU加盟国内の結び付きが政治・経済・社会的に強まったようだ。欧州の人達もEUの未来に関心を持ち続けていることがわかる。これらは公的見解でないこと、また、唯一の正解でないことも補足した。

6 生徒が考察した「未来のEU」とその評価

単元のテーマに添って学んだ後、生徒自身が考えた「未来のEU」について、第7時の200字レポートより多面的・多角的な考察がなされているレポートの一部を抜粋して紹介する（本実践は計3クラス86名で行った）。

【拡大（発展）派：30名】

- EUの国境・通貨・民族・宗教の壁を越え、「多様性を尊重する精神」は世界の主流である。
- 英国が抜けた影響は余り無く、逆に英国は今後厳しい状況になり、やがてEUに復帰する。
- EUに助けられた難民や移民がEUに貢献し続け、拡大・発展するはず。

【縮小（衰退）派：43名】

- 移民や難民が増えすぎて様々な問題が発生する。
- 英国の離脱はEUにとって大きなダメージ。
- EUでは自国の意見が通りにくく、国内で不満が高まる。

【その他：13名】

- 現状維持。各国の国民の中で意見が割れ、離脱決定まで踏み切れない国が多いのではないか。
- 拡大後に縮小。東欧の貧しい国が加盟し、経済的に行き詰まり、縮小する。
- 加盟国は増えるが、EUの影響力・経済力は弱まる。

評価は、OneNote上の単元学習シートと、Formsで提出された200字レポートを中心に行う。ねらいを十分に達成した生徒のレポートを次に示す。この生徒は主に空間的相互依存作用の視点の考察である。

私は10年後のEUについて、今とそこまで変わらないと思う。

理由の一つ目としては、現在の加盟国がEUを脱退する場合には解決しなければいけない問題がたくさんあるからだ。2020年にEUを脱退したイギリスでは現在も、漁業権や関税の問題など様々なことで交渉が続けられている。（中略）

理由の二つ目は、EUはたくさんの国の重要な貿易相手だからだ。その中に日本も入っている。その貿易相手を失ってしまうとEU以外の国も少なからずダメージを受けることになる。それを防ぐためにも、もしEUが借金問題などにより衰退しそうになったらとしても、サポートをしていく、と考えた。

7 おわりに 第8時の生徒学習感想をふまえて

第8時の「社会×英語Mix授業」の学習では、以下のような感想であった。

投票前の多くのイギリスの人々は離脱するとは思ってなく、残留すると思っていたということが分かった。また、私は今回の授業でより変わらず離脱するという意見が深まった。なぜなら、Willのお父さんが言っていた「きっとEUから離脱しないだろう」という意見を聞き、イギリスは離脱したとしてもEUと交流していくのではないかと思う。また、離脱してEUのメリットがなくなったとしてもイギリスが独自に法律などを作ることで対処できるのではないのかと思った。今回の授業で新たな考えが生まれ、友達と話し合うことで自分の考えを見直せたり、深めることができた。

この授業を受けて感じたことは、未来を予測することは大変難しいということと、投票するときにはみなしっかり考えてしっかりと自分の理由を持っているということです。なので僕も投票するときにはしっかりと理由をもって投票したいです。

授業の最初から残留派だったが、今回ウィルの意見とウィル父の意見を聞いて今までフワフワしていた自分の意見がはっきりになった気がする。この先EUがどうなっていくか自分の目で見ていこうと思う。

本単元で生徒の学習意欲が変わった。「国民投票はどんな時に実施されるのか」「日本もEUに入れるのか」次々問いが出ては皆で共有し、調べ、話し合う。すると、また次の疑問へと発展するという探究学習のサイクルが回り始めた。欧州を含む国際関係のニュースや、海外サイトから得た新知見を報告し合っている様子も散見された。学年生徒全員が1つのクラスのようにクラウド上でつながり、意見を交流し、議論しながら、EUの未来を真剣に考えられたからこそ、「主体的・対話的で深い学び」の実現が得られ、ここまで到達できたのではないだろうか。ICTの活用抜きでは決してたどり着けない「新たな学び」の姿がここにある。

- 筆者のアジア州の授業記録とインタビュー、学習者用デジタル教科書の活用方法の紹介などをまとめた研修動画・08 中学校社会 令和3年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」（文部科学省/mextchannel）がYouTubeで公開中です。
- 筆者は年3回授業を公開しています。連絡は本校・伊藤までお願いします。

今回は
歴史の実践を
ご紹介します